Japan Society of Applied Medical Secretaries

JSAMS 日本医療秘書実務学会　会報　第13号1報

巻頭言

会報第 13 号 1 報の発刊にあたって

日本医療秘書実務学会　会長　田中　伸代
（川崎医療福祉大学）

早くも師走となりました。各種感染症はおさまる気配が見えず、皆様方にはご対応でお忙しいことと存じます。

さて、医療分野の情報化の動きはますます加速しています。厚生労働省 によれば、令和 2 年の電子カルテシステムの導入率は一般病院全体で 57.2%（400 床以上で 91.2%）となっています。マイナンバーカードと健康保険証の一体化も進められ、今年の大学等の入学生が卒業して就職する頃には、医療機関での仕事の流れはすっかり変わっているかもしれません。

教育面でも同様であり、本学会の学会誌に掲載されている実践においても、今年度の学会発表においても、組織内教育のデジタル化や組織を超えたオンライン学習が進んでいることが明らかとなっています。

働き方改革の面から見ても、効率的な業務を行うための見直しが必要になっています。かけ声だけではなく、実際に成果を上げることが求められます。そのためには、問題を洗い出して、改善のために十分にデザインすることが重要でしょう。数値化・言語化の過程で、本学会での発表・議論・セミナー等をお役立てください。

[1] 厚生労働省
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/johoka/index.html

目　次

巻頭言 1
第 13 回全国大会 2
　第 13 回全国大会　開催報告 2
　研究発表概要 3
　大会参加記 5
　学会奨励賞の受賞 7
学会員を募集しています 9
セミナーを開催しました 10
新入会員のご紹介 12
2021 年度　収支決算報告 13
2022 年度　収支予算書 14
事務局からのお知らせ 14
　年会費納入のお願い 15
　学会への届出について 15
　編集後記 15

第 13 回全国大会

第 13 回全国大会　開催報告

大会運営委員長　田中　伸代
（川崎医療福祉大学）

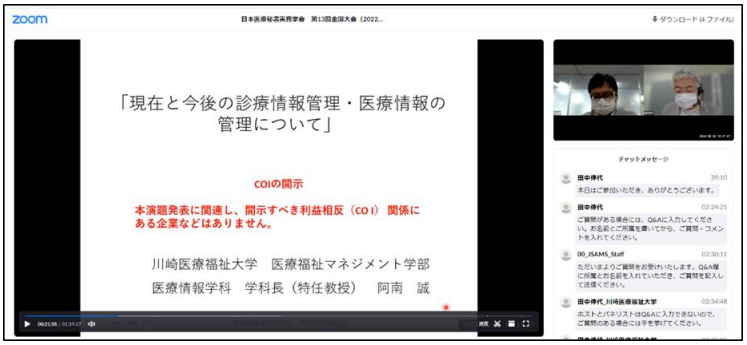
2022 年 8 月 28 日（日）に日本医療秘書実務学会　第 13 回全国大会を開催いたしました。COVID-19 の流行がおさまらない中、今年度もオンラインでの開催となりました。

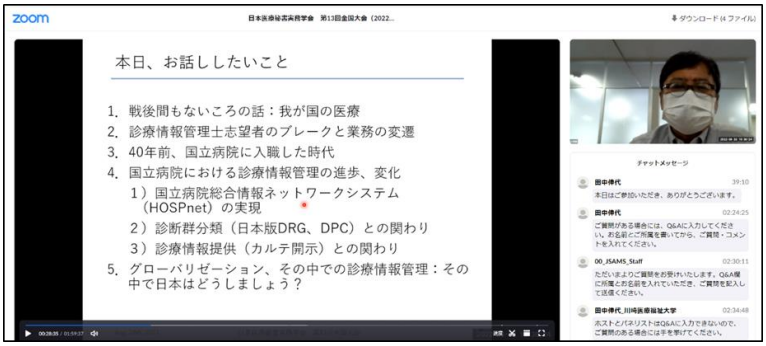
今回の大会テーマは「継続と進化」です。最初に、川崎医療福祉大学医療情報学科学科長（日本診療情報管理士会　前会長）の阿南誠先生に「現在と今後の診療情報管理・医療情報の管理について」というテーマで基調講演を行っていただきました。戦後から現在に至る診療情報管理の流れや、将来への動きについて詳細に示されました。今後の医療機関職員に求められる能力等などについてもディスカッションが行われました。医療秘書、医師事務作業補助者を問わず、HIM (Health Information Management) や臨床ドキュメンテーション改善 (Clinical Documentation Improvement) の知識は医療機関での業務に必要なものであり、職に就く前の教育も、職場での継続教育にも重要なものと考えられます。チーム医療の中の事務系職員のあり方、今後の健康記録への扱いについても様々な示唆をいただきました。「総合的な判断ができる人、全体が俯瞰できる人。グローバルなスキルをもった人材が必要であろう」というご指摘は、教育現場にとっても医療現場にとっても重要なポイントです。

また、研究発表の内容は、組織内での教育支援対応・組織を超えた学習、といった点に焦点が集まりました。継続的に学習を進めること、ネットワークを築くことの蓄積は集まってきていますが、その結果に対しての科学的な分析がいっそう求められます。本学会の使命の一つでもあります。今回の学会や企画委員会のセミナーなどでは、論文執筆、統計処理についての基本的事項を取り上げております。

さらに、今年度は、学会でセミナー（企画委員会担当）を複数回行うことにしており、その一環として、小林利彦先生に「文章の書き方・論文の書き方」というテーマでご講演いただきました。こちらの資料とご講演の動画については、小林先生のご許可をいただき、学会の e ラーニングサイトにアップしております。

皆様のこれからの研究・実践に今回の学会大会が少しでもお役に立つことができれば幸いです。次年度にもつなげていきたいと考えております。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。





研究発表概要

第 13 回全国大会では、6 題の研究発表がございました。発表してくださった皆様、ありがとうございました。研究の概要をご紹介いたします。

「オミクロン株水際対策から市中感染までの戦い」

兒玉　恭佳（東京都立豊島病院）

2022 年初頭にオミクロン株のニュースが盛んになったが、空港検疫からの入院（検疫法による隔離処分）は感染症指定病院でしか受入できないため、当院では 2021 年 12 月初旬より水際対策を迫られた。検疫法と感染症法の違い、オミクロン株解明のために行った厚生労働省の患者解析や国立感染症センターの疫学調査への協力、解明の度に変わる退院基準と入院対応基準。水際対策から市中感染までのＩカ月半に医療秘書が担った業務を報告した。

「新設加算における医師事務作業補助者によるコーディネート」

田中　有希子（沼隈病院）

大腿骨近位部骨折は、骨粗鬆症を背景に、転倒など軽微な外傷で生じる骨折で、70 歳以上になると急激に発生率が上昇する。寝たきりやＡＤＬ低下を生じ、生命予後も悪化することが知られており、早期手術の有用性が報告されている。診療体制を整えることを目的に、2022 年診療報酬改定にて「緊急整復固定加算及び緊急挿入加算」と「二次性骨折予防継続管理料」が新設された。 今回、医師事務作業補助者が主体となり、組織横断的に働きかけ、施設基準届出の資料作成や体制つくりに取り組んだ。

「診断書作成マニュアルの有用性の検討について」

〇須和部　隆代　（浜松医科大学医学部附属病院）
加藤　真嗣、小野田　真弓

当院では診断書の作成の引き継ぎは前任者からの口頭で行われている事が多く診療科の担当者変更時、一時的に業務効率やクオリティが低下する恐れがあった。
今回、一部診療科にて生命保険診断書の下書きマニュアルを作成した。当該診療科を担当していないスタッフを被験者とし、マニュアル確認前後で生命保険診断書作成の業務効率やクオリティについて評価を行い、マニュアルの有用性について検討した結果を報告した。

「医師事務作業補助者へ継続学習の機会を！～コロナ禍での継続と進化～」

〇井上　雅子（新潟県立中央病院）
加藤　真嗣、須和部　隆代、芹澤　早苗、中本　裕美
原　成孝、久保田　聰美、小林　利彦

2021 年 1 月より Web 会議サービスを用いた勉強会を定期開催している。2022 年 4 月 30 日現在での本勉強会の開催数は 8 回であり、医師事務作業補助者へ継続学習の機会を提供すべく、数名のコアメンバーで企画・運営を行っている。
本勉強会は、コロナ禍で一般的となったオンライン形式で開催しており、全国の実務者が気軽に参加できる継続学習の機会を得られることを目的としている。
本発表ではその取り組みについて報告し、医師事務作業補助者の継続学習への関心向上に寄与することを期待する。

「オンライン勉強会を開催することにより見えてきた未来と課題」

〇加藤　真嗣（浜松医科大学医学部附属病院）
井上　雅子、須和部　隆代、芹澤　早苗、中本　裕美
原　成孝、久保田　聰美、小林　利彦

2021 年 1 月より、医師事務作業補助者向けの Web 会議サービスを用いた勉強会を定期開催しており、2022 年 4 月 30 日現在、計 8 回の開催で参加者は延べ 253 名となった。
第 2 回勉強会より受講後に受講者アンケートを実施しており、勉強会の感想だけでなく、取り上げてほしい内容も項目として設置している。
本発表では受講者アンケートの分析を行い、勉強会の効果測定とニーズ把握をし、医師事務作業補助者の今後のスキル向上への課題を考察した。

「医療機関における事務職員の好ましい身だしなみに関する調査報告」

〇高橋　梨華（川崎医療福祉大学）
佐藤　未悠、荒谷　眞由美

身だしなみは相手に不快感を与えないように整える服装や言動であり、人の第一印象を左右するものでもある。そのため、医療従事者の遵守すべき身だしなみの規準を決めている医療機関も多い。そこで「病院の顔」とも言われる受付をはじめとする事務職員の好ましい身だしなみについて、その多くが病院の事務職員として就職する本学医療福祉マネジメント学部の学生および協力を得られたクリニックの患者等に医療機関の事務職員に求められるイメージについてアンケート調査を実施し、結果を報告した。

大会参加記

「医療秘書実務学会、そして、医療秘書業界を盛り上げる一助になりたい」

兒玉　恭佳（東京都立豊島病院）

今年はトップバッターでの発表でしたが、座長の直江先生が和やかなムードを作って下さり緊張することなく進められました。誠にありがとうございました。様々な取り組みや定期的な Web 勉強会のお話しを拝聴し、本学会に集う皆様の向上心に大変刺激を受けました。COVID-19 関連で私の経験をお話しすることで何かのお役に立てるようでしたら、是非協力させて頂きたいと存じますのでいつでもお声かけ下さい。最後になりますが、ご多忙の中このような機会を提供して頂きました学会運営関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

「継続と進化～第 13 回全国大会に参加して～」

田中　有希子（沼隈病院）

この度は、発表という貴重な機会をいただき、ありがとうございました。今大会テーマは「継続と進化」でした。昨年に引き続き本学会では２回目の発表でしたが、昨年よりもステップアップしている私で皆様に再会できていたら幸いです。

学会で、全国の同職種の皆様と情報を共有できることは学会の素晴らしい魅力であり、医師事務作業補助者の発展に必要不可欠だと思います。今回も基調講演や企画、研究発表から多くの事を吸収できたと感じました。ここに改めて感謝申し上げます。

末筆ながら、参加者の皆様、スムーズな運営のために多大なエネルギーを割いていただいたスタッフの皆様に心よりお礼申し上げます。

「ふりかえれば未来」

須和部　隆代（浜松医科大学医学部附属病院）

医師事務作業補助という業務の始まりを知った時はなんだかわくわくいたしました。長年の医療機関勤務の中で様々な経験をし、医師の多忙な業務を目の当たりにしていましたが、『この診断書なら私でもできそうだなあ』『先生のカルテを少しだけでも代筆出来たら』と考えていたからです。

外来で代行入力を行うこと、診断書等医療文書の下書きをする事は決して易しい事ではありません。診療科ごと、診断書ごとの学びは常に必要です。

今回、これまで積み重ねてきた備忘録をマニュアル化し、当院スタッフが協力してくれましたので有用性を検討することが出来ました。今後は業務内容のみならず、楽しさややり甲斐も引き継いでいきたいという思いです。

私は、医療現場で働いている医師事務作業補助者で最高齢に近いと思われます。医療これまでを多少なりとも知るものとして今後の医師事務作業補助者のこれからを考えていきたいと思っています。これまで様々な形でご指導くださった全ての皆さんに感謝を申し上げます。

「第 13 回全国大会で発表させていただいて」

井上　雅子（新潟県立中央病院）

この度は、Web 開催による学会に参加させて頂き誠にありがとうございました。この数年間オンラインによる勉強会が多くなり、対面であれば参加しにくい勉強会にも気軽に参加できるようになりました。私たちの小林塾もその一つだと考えます。その活動をこのような場で発表させて頂き感謝申し上げます。

コロナ禍で人間関係が少し変化してきているように思いますが、この小林塾を通じて私は人と人のつながりの大切さを再発見し、またどのような環境下でも学びたい気持ちがあれば成長できると確信することが出来ました。

これからも継続学習を続けること、そのような場を提供することができるように努力を続けています。

「日本医療秘書実務学会に参加して感じたこと～皆様に感謝！～」

加藤　真嗣（浜松医科大学医学部附属病院）

初めて日本医療秘書実務学会にて発表させていただきました。私の発表は 7 名の共同演者とともに内容を完成させました。私は医師事務作業補助者として病院で勤務しておりませんが、共同演者の先生方のご指導を受けてエントリーすることができました。またオンライン勉強会の参加者、さらにアンケートに回答してくださった方のご協力があったからこそ、私の発表が成り立ったと考えており、この場を借りて深く御礼申し上げます。

また最後になりましたが学会事務局の方にも発表の場をいただきありがとうございます。第 13 回全国大会でも発表できるようさらに精進しようと思える全国大会でした。益々の発展を祈念しております。

「学び続けることの大切さ」

高橋　梨華（川崎医療福祉大学）

この度、日本医療秘書実務学会第 13 回全国大会に初めて参加、発表させていただきました。

実際に現場で働かれている方や先生方を前に学生という立場で発表させていただき、このような機会をいただいたことにとても感謝しております。5 つの発表をお聞きして、皆さんがコロナ禍でもオンライン形式で勉強会を開催されていることなどを知り、社会人になっても学び続けることの大切さを実感しました。私自身も来年の 4 月から医療現場で働くスキルを向上させていきたいと感じました。

「コロナ禍での全国大会に参加して」

沖山　圭子（滋賀短期大学）

現場を離れ大学で学生を養成している私にとって、学会は最新の情報や知識を得る貴重な場となっています。コロナ禍で行動制限が続く中、本年も Web で全国大会を開催していただき感謝申し上げます。

Web に慣れてきたとはいえ、やはり一人で画面に向かう寂しさを感じましたが、発表者の皆様の熱心な取り組みに刺激を受けました。また、Web 懇親会では多くの方と久しぶりに言葉を交わすことができ、人との何気ない会話から貴重な意見やヒントを得ていたこと、学会で人の輪が広がっていたことに改めて気づかされました。

先日、県内の病院長より医師事務作業補助者養成を要望されました。医療現場と養成機関の架け橋になれるよう、この学会で得た刺激を糧に日々研鑽していきたいと思います。

来年は皆様と直接お目にかかれることを楽しみにしています。

学会奨励賞の受賞

学会賞選考委員会におきましては『医療秘書実務論集』第 12 号記念号に掲載されたすべての論考を対象として、慎重に審議を重ね選考を行いました。学会奨励賞を受賞された皆様のご感想をご紹介いたします。

奨励賞を受賞して

岩本　久美子（香蘭女子短期大学）

このたびは、奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。ありがとうございました。学会の田中先生をはじめ、査読を担当いただきました先生方、選考委員の先生方に心よりお礼申し上げます。

論文は病院事務職に求められる資質・能力について、現在と今後の AI 時代に着目して、病院採用担当者のアンケート結果を分析したものです。私どもの研究では「コミュニケーション能力」「対人関係能力」「臨機応変能力」等が現在よりも必要になると結果を得ました。現在短期大学で教員をしており、今後メンバー型からジョブ型採用がますます増えていくと言われておりますが、その中で病院に採用していただき、将来的に活躍できる人材の育成に更に尽力していきたいと存じます。研究面では、本研究に継続して取り組み、今後また貴学会で発表できるよう精進してまいります。

川崎医療福祉大学大学院で指導していただきました山本先生はじめ、諸先生方、アンケートにご協力いただきました病院採用担当者の方々に感謝申し上げます。

論考作成を通して多くの支援者がいることを気付かせて頂きました

兒玉　恭佳（東京都立豊島病院）

この度は名誉ある賞を賜り誠にありがとうございました。

私にとって初めての投稿であり拙い論考でしたが、根気強く査読してご助言を下さいました先生方に感謝申し上げます。本論考の改訂を行っていた時期は、今夏の学会で発表させて頂いた通り、オミクロン株の水際対策で戦っていた頃だったため、何度も論考の完成を諦めそうになりました。そんな時に、いつも抄録や予演のチェックをして下さる医療相談係の鈴木係長や同僚が技術的にも精神的にも支えてくれました。今回の受賞は、たくさんのご支援を下さった学会の先生方と職場の方々への恩返しになったのではないかと思います。受賞に際し学会より頂いたコメントを拝見し、当院の全診療科の医師が一丸となって COVID-19 に取り組み実績をあげられたこと、医療秘書としてチームの一助となれたことを認めて頂けて嬉しく思いました。

今後も日本医療秘書実務学会員として恥じない医療秘書であり続けられるよう精進して参ります。

病院事務系職員の職場教育発展のために

石田　朱美（公立豊岡病院）

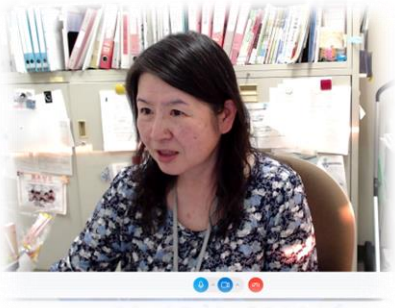
このたびは、医療秘書実務論集第 12 号への論文投稿に対し、「奨励賞」に選定いただきまして誠にありがとうございます。論文作成に際しアンケート調査にご協力いただきました兵庫県下の医療機関の皆様方、査読してくださいました先生方、日頃よりご指導いただきました川崎医療福祉大学の先生方のおかげと心より感謝いたしております。

今回投稿いたしました論文は、病院事務系職員の職場での能力開発を行うために、職場教育の現状と課題を明らかにすることを目的としたものです。体制化が図られつつある職場教育の現状と、一貫した職場教育の体制化を展開するためにどのような対策を講じるのかという現今の課題が明らかとなりました。

今後も学びの場を一方的な情報伝達の場とするのではなく、コミュニケーションを深め、確立する場として活用し、病院事務系職員の職場教育発展のため研究を続けて参りたいと考えております。

現場からの発信を期待しています

黒木　由美（川崎医療福祉大学）



このたびは「奨励賞」をいただき光栄に存じます。この賞をいただくことができましたのも、インタビュー調査に快くご協力いただいた医師の皆様、査読およびコメントをくださいました先生方のおかげと心より感謝いたしております。

本稿は、診療所が考える医師の事務業務のタスク・シフトということで、クリニックの院長にインタビューをし、まとめたものです。インタビューを進める中で、クリニックにおいても医療秘書は医師を支える、無くてはならない職種として活躍していることが分かりました。しかし、論文集へはそのような先行研究や事例報告は数少なく、大変残念に思いました。学会での発表は、その場限りとなりますが、論文集へのご投稿により「クリニックにおける医療秘書の活躍」が先行研究として残され、今後の医療秘書の発展に寄与できることと思いますので、みなさまどうぞよろしくお願いいたします。

2024 年 4 月から医師に対する時間外労働の上限規制の適用が開始されることになっています。医療秘書は医師の秘書ですので、今後も医師の事務業務のタスク・シフトにおいては、さらに活躍の場が広がり、大いに貢献できる職種だと考えます。今後もさらなる医療秘書の発展に関わる研究に尽力をいたしたいと存じます。

学会員を募集しています

本学会では、医療秘書、あるいは広く医療事務に関心を持つ医療機関の実務者の方々、教育者・研究者の方々のご参加をお待ちいたしております。

実務者の方々

- 医療機関で、医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務に従事している方、関心のある方
- 医療機関で、医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の教育、指導をしている方
- 今後、医療秘書を目指そうとしている方
- 医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の能力開発に関する情報を求めている方
- ホスピタリティや接遇応対マナーの能力

教育・研究者の方々

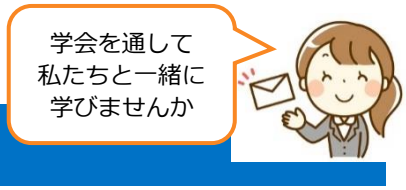
- 大学・短期大学・専修学校などにおいて医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の教育・ 指導に携わっている方
- 医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の能力開発、指導方法、ホスピタリティや接遇応対マナーなどに関する教育・研究に関心のある方
- 医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務に関する情報を求めている方

会員特典

- 本会が主催する全国大会などで研究や、実践の成果を発表できます。
- 本会が主催するワークショップや研修会に参加できます。
- 医療機関の方や、教育関係者、研究者の方との交流ができます。
- 機関誌『医療秘書実務論集』に論文や報告などを投稿できます。
- 『医療秘書実務論集』を無料送付します。
- 学会員の方は、メディカルオンライン上の学会誌を無料で閲覧できます。
- 『会報』を無料送付します。

会費

(1)正会員 6,000 円
(2)学生会員 3,000 円
(3)賛助会員（団体）一口 10,000 円
(4)法人会員 一口 20,000 円



セミナーを開催しました

今年度より、多くの方が実務に活かすことができるよう企画委員の皆様がセミナーを企画してくださいました。今後ともぜひ、ご参加ください。

第１回

接遇クレーム対応　基本編
～前向きになれるといいな～

2022 年 7 月 29 日

『いよいよスタートした企画セミナー
第１回の概要』

田中　恵子（ミッションウィル）

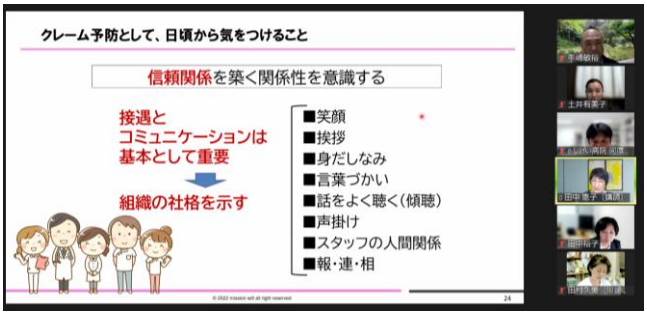
当会企画セミナー第１回は、『接遇　クレーム対応基本編～前向きになれるといいな～』のテーマで 7 月 29 日に開催し、40 名ほどの参加がありました。ご参加くださいました皆さま、大変ありがとうございました。

概要をご紹介いたします。クレームの捉え方を変えることで、マイナスイメージのクレームをプラスのイメージに変え、ポジティブに取り組むことが可能になります。その心構えとポイント、そしてスキルについてお伝えしました。患者さんと医療機関の win－win の関係ができるってすばらしいですよね。

聞くだけの one-way オンライン研修ではなく参加型研修にするため、ケーススタディを用いて少人数のブレイクアウトセッションを取り入れてみました。参加型研修は緊張感がある一方、楽しくもあります。研修後のアンケートによるとセッションは好評だったようです。1）聞くだけでなく、意見交換は有意義であった 2）少人数だったのでしっかりと意見を言い合うことができた 3）切り替えがスムーズで流れがよかった 4）経験豊富な方たちの話が聞けた　等のご意見が挙げられていました。また、一方で、1）グループセッションには心づもりや準備が必要なので、事前通知がほしかった 2）グループセッションの十分な事前資料がほしかった　等のご指摘もありました。さもありなん！

このような貴重なご意見を反映させて、さらに充実したセミナーを目指したいと思います。

皆さまのお役に立てる当会でありたいと願っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



▲セミナーの様子

第２回

文章の書き方・論文の書き方

2022 年 8 月 28 日

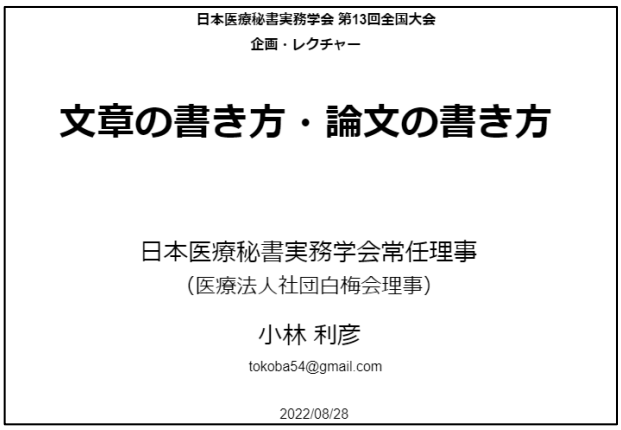
『ネタさえあれば抄録作成は難しくない！
～もっと気軽に学会・研究会で発表しよう～』

小林　利彦（医療法人社団白梅会）

第 13 回全国大会において「文章の書き方・論文の書き方」のレクチャーを行った。

多くの実務者が学会や研究会での抄録作成・論文投稿へのハードルを自ら上げている気がするが、著書や原著論文などではなく、400-800 文字の抄録作成や 1200-1500 文字程度のコラムであれば、その作成や執筆は決して難しくない。実際、一つの文章の（読みやすい）文字数は 40 文字程度であり、その中の読点「、」を２つくらいにすれば意味も通じやすい。あとは、その文章をいくつ集めれば自分の言いたいことが表現できるのかである。

例えば、5-6 個の文章（200-240 文字）で 1 段落にすれば、それ（段落）を２つ作ることで多くの学会抄録は完成する。あとは、複数の文章を順序だって並べ、自身の主張を展開すれば良い。文字数の多い論文などでは「背景」「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」といった文章構成も大事だが、抄録レベルであれば、最も主張したいことを文頭に置き、その根拠等を後につなげる（最後に結論を述べる）だけで良い。当然、ネタがあることが前提とはなるが、抄録等の記載は難しくないので、実務者はもっと気軽に学会・研究会で発表しよう。



セミナー資料より一部抜粋

第3回 アンケート調査を成功させるために
－質問の設定と統計処理の基礎－

2022年9月30日

『アンケート調査にチャレンジ してみてください』

荒谷　眞由美（川崎医療福祉大学）

アンケート調査は情報収集のためによく用いられる手法です。この会報を読まれている方々で、今までに経験されたことのある方は多いと思います。

ところで、私自身、かつてアンケート調査を行い、用紙を回収した後で困ったことがありました。一つは「この回答結果は使えない。」あるいは「こんなことも聞いておくべきだった。」といった質問内容に関することで、もう一つは「これらの結果をどのようにまとめて、どのように解釈したら良いのか。」といった分析に関することです。前者は仮説の立て方が不十分だったために起こった問題で、後者は統計の知識が不十分だったために起こった問題です。

統計解析は難しくて手に負えないといった印象を持たれている方も多いと思います。しかし、統計学者になるのでなければ、難しい数式は理解できなくても目的のために適した分析方法を選び、その方法を使う意味と分析の手順がわかっていれば良いのではないかと思います。60　　分という短い時間で質問の設定から統計処理の基礎までを話しましたので、理解し難かったかもしれませんが、ご参加の皆様の一助になれば幸いです。アンケート調査でなければ手に入らない情報があります。ぜひチャレンジしてみてください。

よろしく

年会費納入のお願い

2022（令和 4）年度、また今年度以前からの年会費納入をお忘れになっていませんでしょうか。
学会関連のお知らせ等の発行や送付は、学会員の皆様が納めていただく年会費によりささえられておりますので、未納の方はすみやかに下記口座宛に振込みをお願いいたします。
また、年会費を 2 年間未納の方は、会則第 8 条 2 により自然退会となります。なお、自然退会となりましても、退会までの年会費のご入金をお願いいたしますので、ご注意ください。

【年会費振込み先口座】
中国銀行　川崎学園出張所
口座番号　1294871
日本医療秘書実務学会（ニホンイリョウヒショジツムガッカイ）

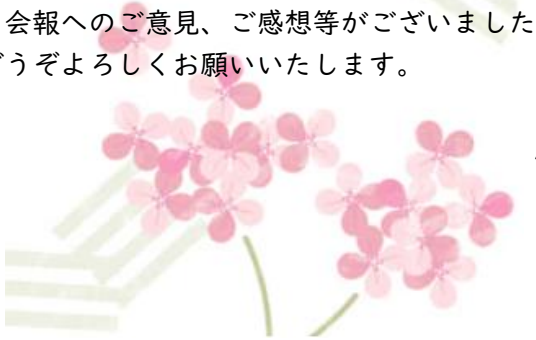
学会への届出について

ご都合により退会をご希望の方は、退会手続きをお願いいたします。
日本医療秘書実務学会のホームページ上部「入会手続き」内に「退会届」の書式がございますので、記入・捺印のうえスキャンしたデータを事務局宛にメールでお送りください。

QR コードから
ホームページが開けます。

編集後記

日本医療秘書実務学会『会報』第 13 号 1 報をお届けいたします。今号は、第 13 回全国大会および企画セミナーの様子を中心にお送りいたしました。原稿をご執筆くださりました皆さま、お忙しいなか誠にありがとうございました。
企画セミナーは参加する度に多くの学びがあり、これからやってみたい、私もできるかも！と思う内容ばかりで次回の開催がとても楽しみになります。
会報へのご意見、ご感想等がございましたら、学会事務局へお知らせください。
どうぞよろしくお願いいたします。



広報委員長　土井有美子（中国中央病院）
広報委員　早田真樹（福岡医健・スポーツ専門学校）
田中恵子（ミッションウィル）
武村順子（宮崎学園短期大学）
黒木由美（川崎医療福祉大学）

日本医療秘書実務学会『会報』第 13 号 1 報／2022 年 11 月 30 日発行

〒701-0193　岡山県倉敷市松島 288
川崎医療福祉大学医療秘書学科内
https://jsams/wp/
E-mail:office@jsams.jp